

積極的なかわり合いを目指した活動の工夫 ～Hi, friends! 1 Lesson7 「What's this?」の実践を通して～

元城小学校 田村 暢之

（1）活動内容

本校第5学年の児童は、交流活動において、決まった相手としか交流できない様子が見られた。また、2学期の初めに実施したアンケートの結果（図1）の中で、「どちらでもない」と答えた児童が、「交流は恥ずかしい。」「ちゃんと英語が言えるか心配。」と、交流に対して苦手意識をもっていることが分かった。これらの実態を基に、様々な相手との積極的な交流を促すため、以下のような活動を行った。

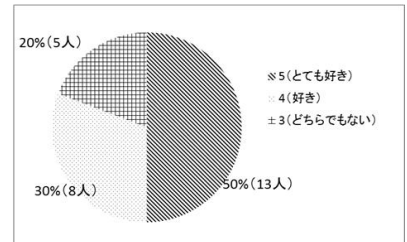


図1：交流活動に関するアンケート

① 既習事項を生かした導入

第5学年では、Lesson1で「How are you?」、Lesson5では「What ~ do you like?」の表現を扱う。その表現を使って、授業の導入でクラス全体での交流活動を毎時間行った。その中で、「two boys, two girls.」のように、交流相手の数と性別を指定して交流させた。

② インフォメーションギャップゲーム

様々な相手と進んで交流させるために、インフォメーションギャップを用いた交流活動を行った。同じ型のそれぞれ違ったインフォメーション（情報＝答え）が示されたワークシート（添付資料参照）を配布した。児童は「○○, What's this?」と尋ね、自分の知りたい情報をもっている児童を捜して交流した。（写真1）



写真1：ゲームの様子

③ 交流における場の工夫と意欲付け

本校は、今年度で閉校し、北小、中部中と合併して施設一体型の小中一貫校「浜松中部学園」となる。本校での思い出に残っているものをクイズの題材とした「元城小メモリアルクイズ大会」を行った。

第一段階は、教師からスリーヒントクイズやシルエットクイズなどのクイズを出題し、表現に慣れ親しませると同時に、自分ならどんな出題の仕方をするか、イメージをもつことができるようにした。

第二段階では、児童自身が作ったクイズを使って、児童同士でクイズを出し合う交流活動を行った。その際に、クイズを出題する側と挑戦する側の児童に分け、ワークショップ形式で活動を行った。また、クイズに正解するとシールを貼ってもらえるカードを用意し、積極的な交流を促した。（写真2）



写真2：交流活動の様子

（2）成果と課題

成果

- ① 毎時間決まった活動から授業に入ること、児童が見通しをもち、安心して活動することができた。また、既習の表現を用いることで、進んで交流することができた。
- ② 様々な相手と交流する必要がある状況を設定することで、男女分け隔てなく交流する様子が見られた。表現を使う場面が増えたことで、表現の慣れ親しみにつながった。

課題

- ① 既習事項を生かした導入から授業に入っていたが、授業の中のメインの活動との関連が少なかった。メインの活動で使う単語などを導入に取り入れることで、関連をもたせるようにしたい。
- ② クイズに答えることや挑戦することが目標になってしまい、交流するための表現が疎かになってしまいう児童がいた。外国語に関わることの意義や面白さを感じさせたい。